

# 富山県武道館 基本設計の概要



担当：スポーツ振興課

南外観

# これまでの経緯

- R2.4 基本計画（改定前）策定
- R3.3 基本設計（前回）策定
- ~R4 民間活力の導入可能性を模索
  - …資材高騰等による建設費上昇、建設予定地周辺環境の変化
- R5.4 「基本計画の見直し検討委員会」開催（~R5.7）
- R5.9 基本計画（改定版）策定
  - ★建設予定地を「県総合運動公園のびのび広場」へ
  - ★施設機能を「武道競技の振興・競技力向上」に絞込み
- R6.3 基本設計開始（~R6.11）

# 施設のコンセプト・施設の役割

## ■ 施設のコンセプト

武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設

## ■ 施設の役割

- 富山県の武道の拠点となる施設
- 武道競技の公式大会が開催可能な施設
- 日常の稽古や指導者講習会、研修会で利用しやすい施設

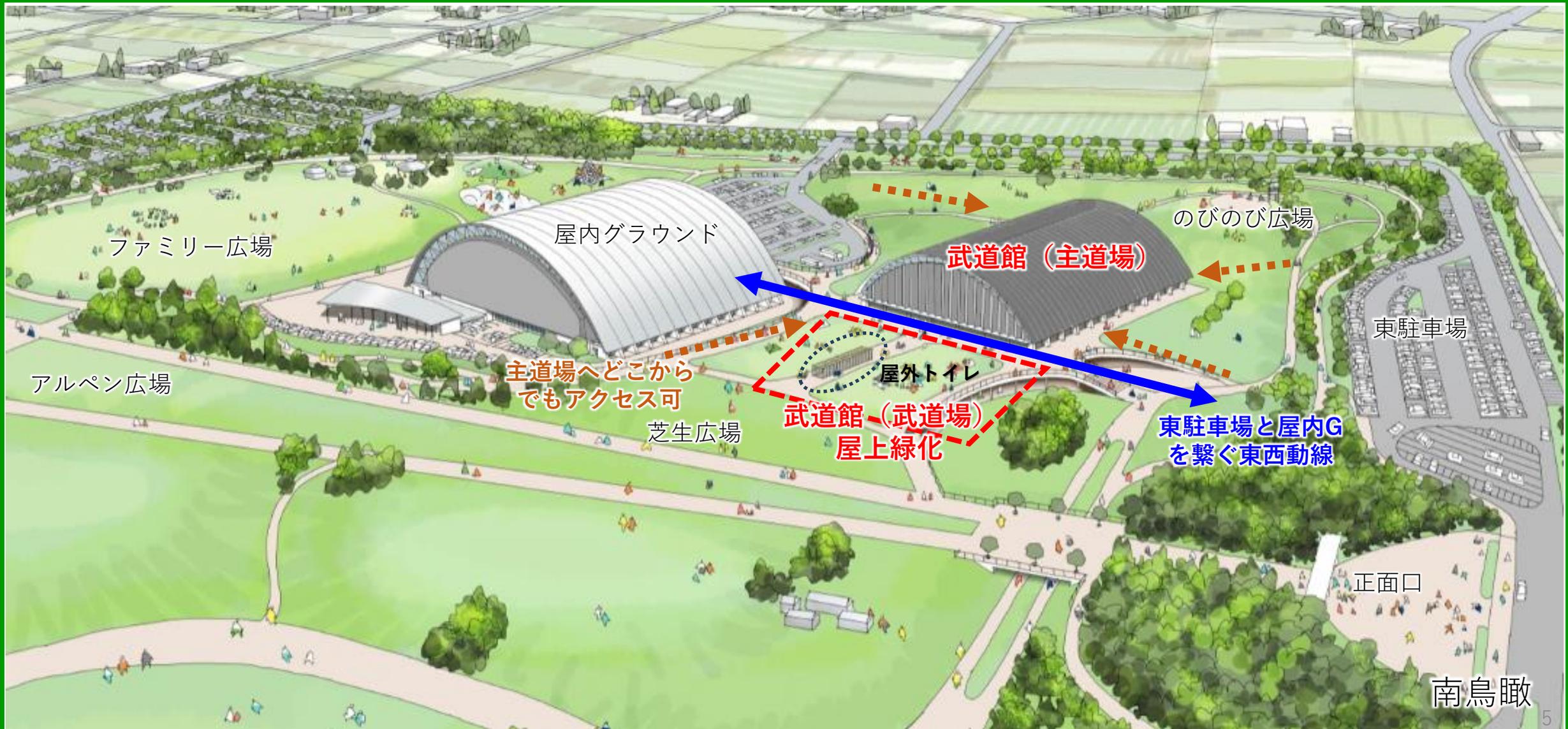
## ■ 設計上のポイント

- 武道競技の振興・競技力向上の拠点として相応しい施設に
- 県総合運動公園全体との調和や景観への配慮
- 建設や運営コストの低減 など

# 建物概要

規 模	地下1階、地上1階
構 造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
延床面積	約11,200m <sup>2</sup> （基本計画上は12,000m <sup>2</sup> 程度）
建築面積	約10,900m <sup>2</sup>
建設工事費	88.3億円（税込み、予算編成過程で変更可能性あり）
今後の予定	令和6年12月～ 実施設計（～令和7年夏頃まで） 入札手続き等を経て、令和7年度中に工事着手 約2年間の工事を経て、令和9年度中の開館を目指す。

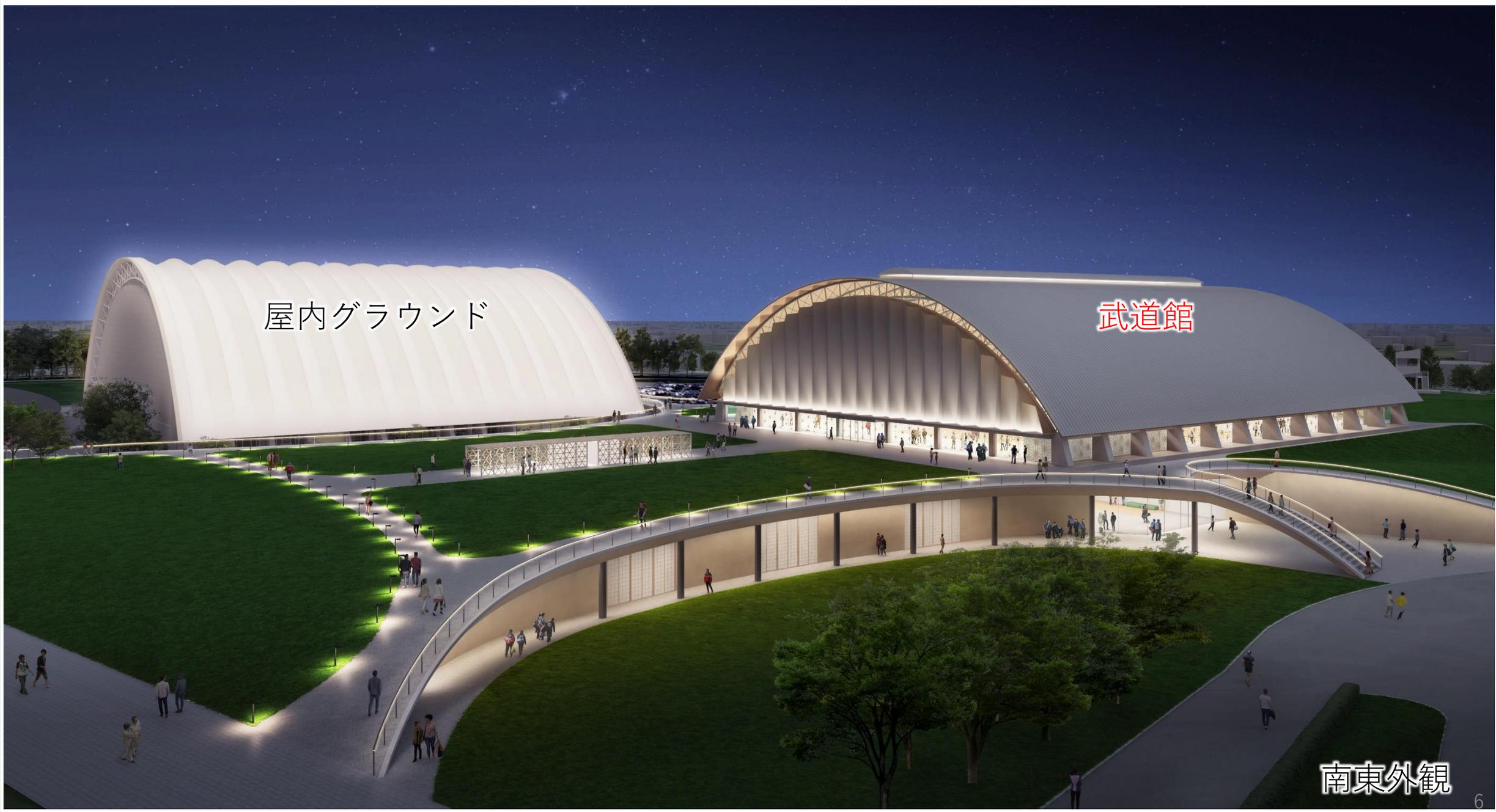
# 配置計画



屋内グラウンド

武道館

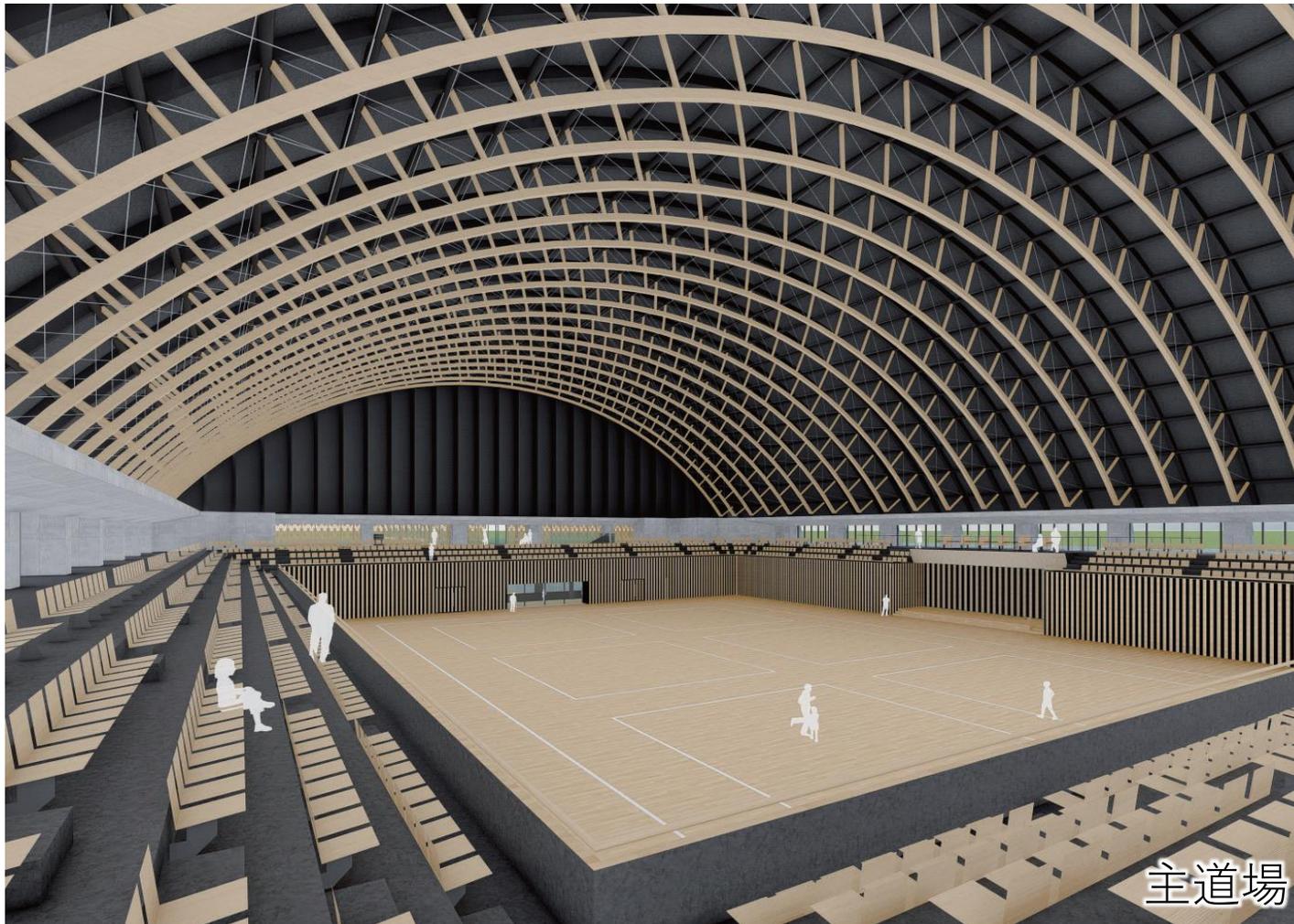
南東外観





# 主道場

➤ 大規模の武道大会が開催可能、武道競技以外でも活用可能



主道場

- 広さ 50m×40m
- 天井高 15m~20m
- 客席数 約1,500席
- 活用例
  - 柔道・剣道等 6面
  - なぎなた 4面
  - 卓球 10面
  - バドミントン 8面
  - ソフトバレー 8面

# 武道場①

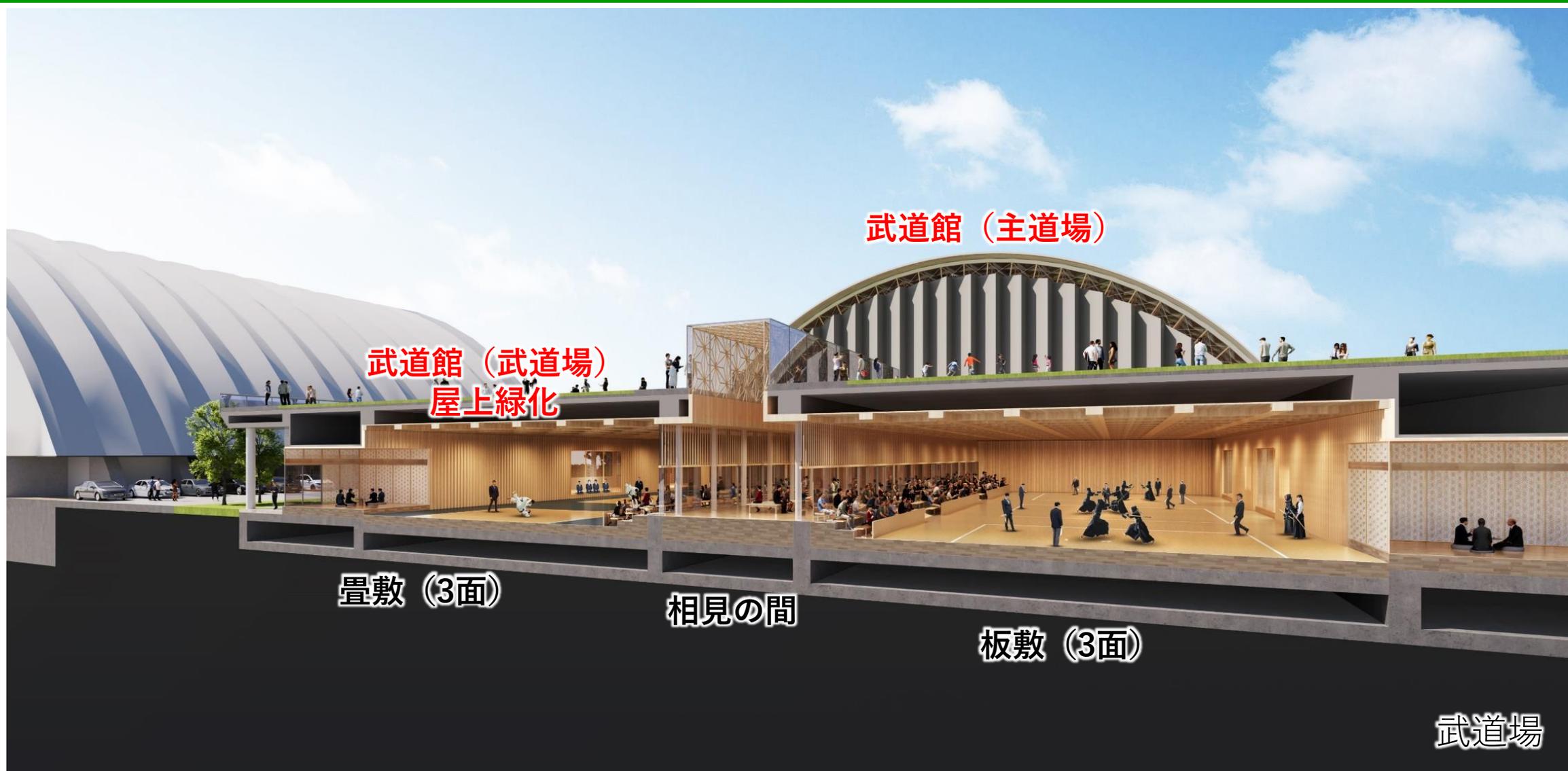
➤ 日常の稽古のほか、小・中規模の武道大会が開催可能



武道場（畳敷）

- 広 さ 50m×18m
- 天井高 4.5m
- 客席数 約560席
- 活用例（畳敷・板敷）
  - 柔道・剣道等 各3面
  - なぎなた 3面
- 移動間仕切り壁により、2面＋1面に分割利用が可能

# 武道場②



武道館（主道場）

武道館（武道場）  
屋上緑化

畳敷（3面）

相見の間

板敷（3面）

武道場

# 主な特徴①

- 公園景観に調和し、かつ武道と日本の伝統をイメージした外観
  - 武道場を屋上緑化し、周辺と一体・連続的な芝生広場に。
  - 主道場屋根は隣接の屋内グラウンドとの調和を図りドーム形状に。
  - 瓦や日本刀を想起させる「銀黒色」とし、重厚で格式ある外観に。
- 木を用いた温かみのある内観、県の伝統工芸を用いた内装
  - 主道場、武道場の内壁は杉板張りとするなど、武道館らしく、かつ、温かみのある空間に。
  - 富山県の基幹産業であるアルミ、伝統工芸である高岡銅器、越中和紙、組子などを可能な限り用いて、富山県らしい武道館に。

# 主な特徴②

## ➤ 公園と一体となった「緑の中の武道館」

- 武道館の「交流の辻」と呼ばれる廊下を通過し、東駐車場と屋内グラウンドとの東西をつなぐ通り抜けが可能
- 主道場の観客席には、周辺の芝生広場のどこからでもアクセス可
- 2つの武道場（畳敷・板敷）の間のロビー「相見の間」は、競技が身近に感じられるようガラス張りに。

## ➤ 環境に配慮した武道館

- ZEB Oriented (BEI=0.7以下) 相当のエネルギー消費性能を達成した環境配慮型武道館
- 屋外トイレに太陽光発電設備を整備し、再生可能エネルギー活用